

# ベトナム競争法・政策月報

## 第2号 (2013年9月)

VCA、公正取引委員会との協力に関する取決めに署名

2013年8月28日

ベトナム競争庁（VCA）は、2013年8月28日フィリピン・マニラにおいて、公正取引委員会との間で競争分野に係る協力に関する取決めに署名した。VCA側はムン長官、公正取引委員会側は杉本委員長が署名した。

この取決めは、2008年に署名された「経済上の連携に関する日本国とベトナム社会主義共和国との間の協定」の競争章の実施細則として位置付けられるものであり、公正取引委員会とベトナム競争庁との間における通報、情報交換、執行活動の調整等について定めるものである。



本取決めの署名式において、杉本委員長からは、近年のVCAによる積極的な活動に敬意を表するとともに、今後の両当局間の協力関係の更なる深化を確信する旨の発言がなされた。

これに対しムン長官からは、これまでの公正取引委員会によるVCAに対する技術支援について謝辞が述べられるとともに、日越外交関係樹立40周年の今年に本取決めが署名されたことを歓迎する旨の発言がなされた。

※本取決めのテキスト（英文）については、公正取引委員会英文ウェブサイト（<http://www.jftc.go.jp/en/pressreleases/yearly-2013/august/13082802.files/VCAforJFTC.pdf>）にて閲覧可能である。

<b>VCA、第8回東アジア競争法・政策カンファレンス、第9回東アジア競争政策トップ会合に出席</b>
---

2013年8月28-29日
---------------

2013年8月28日及び29日にフィリピン・マニラにおいて開催された第8回東アジア競争法・政策カンファレンス及び第9回東アジア競争政策トップ会合にVCAからムン長官ほかが出席し、ベトナムにおける近年の競争政策の進展状況等についてプレゼンテーションを行った。



上段左から、Shila 事務総長（マレーシア競争委員会）、Lim 事務総長（シンガポール競争委員会）、Sims 委員長（豪州競争消費者委員会）、Messi 委員長（インドネシア事業競争監視委員会）、ムン長官（VCA）、Tsai 委員（台湾公平交易委員会）、下段左から、デリマ・フィリピン司法大臣、アキノ・フィリピン大統領、杉本委員長（公正取引委員会）
---

これら会合は公正取引委員会、フィリピン司法省、独立行政法人国際協力機構及びアジア開発銀行研究所の共催により行われるもので、東アジア地区の競争当局のトップ等が一堂に会し、同地区における競争法・政策の理解促進等を目的とするものである。

東アジア競争法・政策カンファレンスの開会式においては、アキノ・フィリピン大統領による基調講演が行われたことなどから、同会合がフィリピン国内で大きく報道された。

<b>法外な乳製品の価格に適切な取り締まりを</b>	2013年8月15日 Viet Nam News (社説)
----------------------------	-------------------------------------

今月初めにニュージーランド産粉ミルクからボツリヌス菌が発見された問題が未だ解決されていない中、ベトナム国内の子を持つ親たちは、粉ミルクの価格が再度上昇したのを見て、金銭を騙し取られているように思っている。

8月1日から、外資系粉ミルクメーカー数社が粉ミルクの価格を5から10パーセント引き上げた。これは今年に入って5回目の値上げとなっている。小さな子供を持つ親たちが、再度の値上げを受け入れ、子供達の栄養レベルを維持しようとしてより努力しているにもかかわらず、政府の関係当局は何もできずに静観しているだけである。

最近行われた乳製品の価格に係る会合において、ベトナム国内では、ここ6年間で牛乳の価格は1.85倍上昇し、粉ミルクの価格が約30倍も増加しているとの報告があった。ベトナム商工会議所の調査によれば、年平均2・3回の価格上昇の流れがあり、2007年から2010年の間には16回の価格上昇が行われた。

これらの価格引き上げの理由は、原材料価格の上昇、仕様の変更、燃料価格、賃金や管理コストの上昇といった毎回似たようなものである。これらの理由はすべて親達の財布からより多くの引き出すための言い訳のように毎回使われているが、その理由が正しいものかどうかを証明できた者はいない。関係当局は、毎回値上げが行われた後、価格上昇の理由について説明できないことに頭を悩ませている。

このような乳製品の価格上昇を見て、多くのエコノミストは、市場には現在200以上の乳製品原材料や乳製品の輸入業者が存在するので、本来ならば活発な競争が行われてなければならない、このようなことは通常起こりえない、と指摘

する。しかしながら、世界中で乳製品の供給量が下がる心配が全く見られなかったにもかかわらず、価格は2007年から絶え間なく上昇し続けている。

ベトナム基準消費者保護協会主催の会議において、ベトナムの牛乳の価格が世界一高いという報告がなされたとき多くの人たちは衝撃を受けた。ベトナムにおける牛乳の平均小売価格は1リットル当たり1.4米ドルであり、中国では1.1ドル、インド、欧州及び米国では0.5から0.9ドルの間にとどまっている。ASEANを見ても、ベトナムでの牛乳の価格はマレーシアの2倍であり、タイの1.5倍である。さらにこの会議では、多くの乳製品会社は利益が出る価格の4倍から5倍の値段で自社製品を販売しているとも報告された。

隣国の中国では年間約127億ドルに相当する巨大粉ミルク市場を有している。ちょうど先週（7日）、中国政府は価格カルテルを行ったとして粉ミルクメーカー6社に対して1億900万ドルの制裁金を科している。中国独占禁止法施行以来史上最高額の制裁金となった本件は、中国政府による4か月わたる審査活動の成果である。本件審査は中国の経済政策の最高機関である国家発展改革委員会により実施されたものであり、同委員会は価格に関する独占行為を規制している。

今年3月に国家発展改革委員会の審査が開始されて間もなく、少なくとも3社の外資系粉ミルクメーカーが中国における自社製品の価格を12から20パーセント引き下げた。乳製品の価格に対するこのような審査がベトナムにおいても開始されることをベトナムの多くの親たちが望んでいることは容易に想像できる。

乳製品の価格について、継続的に監視を行う政府機関が存在することはベトナムにとって良いことであろう。しかし、ベトナムにおける乳製品の管理を行う政府機関は多過ぎであり、少なくとも保健省食品衛生安全局、科学技術省、財務省価格管理局及び商工省などがこれに該当する。そして、これまで自分（この社説の筆者）が知る価格引き上げについて、これらのどの当局も消費者の権利を守るために具体的な行動を起こしたことはない。

ベトナム政府は、2020年までに18才男子の平均身長を167センチとし、18歳女子の平均身長を156センチとすることを目標とした詳細計画を承認した（現在のベトナム人の18才時の平均身長は男子が164センチ、女子が153センチとなっている）。栄養は人間の身長を伸ばすのに必要な要素だが、ベトナム政府が人々の身長を伸ばしたいという願望をきちんと認識しているのか疑わしい。少なくとも、現在行われている粉ミルクの不当な価格設定はこの動きに逆行しているのではないか。今こそ政府は消費者の権利を尊重し、親たちの信頼を取り戻すために粉ミルクの価格統制に本腰を入れるべきである。

（注）ベトナム商工省は、2010年、粉ミルクに係る市場調査を実施し、報告書を公表している。当該報告書では、粉ミルクの市場価格の動向等を調査し、競争上の問題点の指摘及び提言を行っている。